

# 大阪成蹊短期大学

## 評価短期大学の概要

設置者 学校法人 大阪成蹊学園  
理事長 中 明夫  
学 長 宮瀬 富之  
A L O 西中 隆  
開設年月日 昭和 26 年 4 月 1 日  
所在地 大阪府大阪市東淀川区相川 3 - 10 - 62

## 設置学科および入学定員

学科	専攻	入学定員
表現文化		100
経営会計		120
観光		90
総合生活		220
児童教育	初等教育学	120
児童教育	幼児教育学	100
	合計	750

## 専攻科および入学定員

なし

# 機関別評価結果

## 1. 機関別評価結果

大阪成蹊短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成18年3月23日付で適格と認める。

## 2. 機関別評価結果の事由

大阪成蹊短期大学の設置母体である学校法人大阪成蹊学園は、昭和8年、実業学校令による四年制女学校「高等成蹊女学校」として開学し、昭和26年に私立学校法制定に伴い法人名を現在の名称に改めるとともに、大阪成蹊女子短期大学を設立した。その後、平成15年に大阪成蹊短期大学と名称を変更し、現在は、総合生活学科、児童教育学科、観光学科、表現文化学科、経営会計学科の5学科を有する短期大学となっている。

平成17年1月20日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

建学の精神「桃李不言下自成蹊」や行動目標「忠恕」等が大学要覧、学生便覧等で、分かりやすく教職員・学生に伝えられ、教育に反映されており、学校全体で建学の精神の具現化を図っている。また、5学科、8専攻・コースで、教育目的が明確に示され、毎年度、点検・評価も行われている。

教育課程は、各学科・専攻・コースで具体的に示され、学生のニーズに応え、多様な資格・免許を取得するために工夫されている。また、授業内容はシラバス等で学生に示され、学生による授業アンケートも行われており、授業の改善への努力をしている。平成15年度からはアドバイザー制を充実させて、学生の指導に効果を上げている。資格取得のための取り組み、編入学志望者に対する指導も十分である。

学生支援として、入学者に対してはオリエンテーション、ガイダンス、ファーストイヤーセミナー、アドバイザー制、オフィスアワー等で、学習目標等を十分に理解させる努力をしており、また、習熟度別クラスも導入している。就職支援のための教職員組織、及び、留学生、社会人、障害者の受け入れ・支援体制が整備されている。

学科教育に関係するテーマを共同研究し、成果を上げており、研究成果を発表する機会

が学内にも準備されている。また、教員の研究費として、適切な額が予算計上されている。

社会的活動については、学校法人として公開講座、生涯学習講演会等を定期的に行い、教育支援センターが中心となって地域と交流連携を進めている。学生が参加している社会活動は多岐にわたり、それらの社会活動を短期大学としても奨励している。海外の教育機関への学生派遣が実施されており、海外の大学との学術情報の交流、雑誌の交換等が行われている。

理事会、監事業務、評議員会はすべて適切に運営されている。学校法人に経営計画策定推進本部を設け、理事長が本部長となって、学園の中・長期経営計画を立案し、各学校での分科会に意見を求め、理事会で決定している。教授会は定期的開催され、平成 16 年度からは学科長会を運営協議会と改称して充実させている。また、事務組織は学生にとって利用しやすい構成となっており、事務の規程はおおむね整備されている。

財務については、年度ごとに、予算の作成、収支の確認、資金残高の管理等が行われ、計算書類が適正に作成されており、公認会計士の監査で適正と認められている。また、中・長期計画に基づいて財務計画が立てられ、決算の状況を見て計画の見直しを行っている。固定資産の管理台帳も整備され、施設の安全管理、バリア・フリー対策も進められている。

過去 6 回、自己点検・評価の報告書を作成し、公表している。自己点検・評価は、全員参加の体制で行っており、年度初めに、自己点検・評価の方針を策定し、全教職員に周知している。

### 3. 優れている点及び向上・充実のための課題

#### (1) 優れていると判断される事項

評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- ・ 新入学生には、学長自らが制作したオブジェを使って、建学の精神、教育理念等の説明を含めた導入教育をしている。
- ・ 教育目標を達成するために平成 15 年度から「キャンパススタディーノート」を用いて、在学する 2 年間で 4 ステージに分けて、ステージごとに個々の学生に対応した指導をしている。

評価領域 教育の内容

- ・ 大阪カレッジネットワークや併設の 2 大学等と単位互換協定を結び、単位互換の実績を挙げている。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

- ・ 卒業生に対して、再教育、アフターケア教育、国家試験対策講座等が行われている。

- ・ 卒業生の就職先約 8000 社からのアンケートによると、厳しい指摘もあるが、規律性、明るさなどで高い評価を受け、社会に有用な人材を輩出している。

評価領域 学生支援

- ・ 独自の奨学金制度があり、必要な学生に貸与されている。

評価領域 研究

- ・ 研究費の支出の用途は自由度が高く、各自のテーマや状況に応じて配分されている。

評価領域 社会的活動

- ・ 地域の商店主らが相談に訪れた学園祭における「地域住民や中小企業のための経営税務相談コーナー」は、専門性を活かした試みである。

評価領域 管理運営

- ・ 事務職員が各自の仕事において目標設定を行うシステムを持っている。

## (2) 向上・充実のための課題

評価領域 教育の内容

- ・ 授業アンケートの集計結果は担当者止まりとなっているが、少なくとも学生に結果を公表することや、年度比較の実施が望まれる。

評価領域 教育の実施体制

- ・ 学生の利用を促すための図書館の改善・充実が望まれる。

評価領域 学生支援

- ・ 学生へのメンタルケア、カウンセリング体制の一層の充実が望まれる。
- ・ 職業選択のためのカウンセリング、先輩の話を聞く会等により、就職に対する意欲を高める必要がある。

評価領域 財務

- ・ 児童教育学科（初等教育学専攻）における定員超過を是正されたい。

## (3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし